

非協力児との心のふれあいについて



しながわ小児歯科医院 歯科衛生士

小川 晴子

■ 略歴

平成 6 年 3 月 長崎県立佐世保西高等学校卒業
 平成 6 年 4 月 九州歯科大学附属歯科衛生学院入学
 平成 8 年 3 月 九州歯科大学附属歯科衛生学院卒業
 平成 8 年 4 月 しながわ小児歯科医院勤務、現在に至る。

小児歯科臨床において、患児の協力は必要不可欠なものです。しかし、実際には非協力的な子供達も多く、このような患児にどのように接すればよいか重大な課題となっています。

患児は、名前を呼ばれるまでおもちゃや本などに夢中になり遊んでいても、自分の順番になると必死に抵抗して診療室に入ろうとしないときがあります。このような場合、無理に診療室には連れてはいかず、母親の協力のもと子供に同意を得るように努め、がんばって治療をするのだという、やる気につながるために自分の足でユニットまで歩いてもらいます。治療時には、手足をバタバタさせて暴れたりする患児には、安全に治療を行うために安全ネットを使用します。ただし、患児が協力的になったら使用をやめます。安全ネットの使用はなるべく避けたいものですが、治療を安全・確実にを行うためには、スタッフの手で押さえるのには限界があり、暴れたのでケガをさせてしまっただけは何にもなりません。安全ネットの使用には、母親の理解が必要になります。どうしても理解が得られない場合には、患児の協力が得られる年齢になるまで待つしかありません。

当医院で、初診時に泣き暴れて安全ネットを使用した経験がある、現在小学1年生以上の100名に対して、無作為にアンケート調査を行ったところ、小さい頃は、歯の治療は嫌だったけれど、今では悪い歯を治療してもらってよかったと思っている子供が、大半を占める結果が得られました。(図1・図2) 小さい頃は、非協力的な子供達との十分な心のふれあいができなかつたとしても、時間の経過とともにそれができるようになってきます。

小さい頃、歯の治療について
どう思っていましたか？

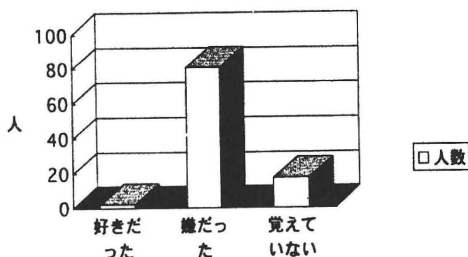


図1

小さい時の歯の治療について、
今ではどう思いますか？

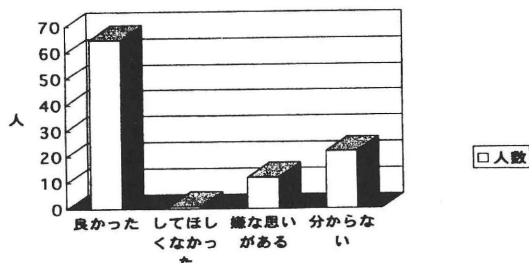


図2

デンタルスタッフとして子供と接することを繰り返していくうちに、少しずつでも信頼関係を築き、非協力的から協力的に導いていくことが私達の大きな役割でもあり、永遠の課題といえるでしょう。